

第55回NHK杯全国高校放送コンテスト千葉県大会



研究発表部門 研究要旨

ドキュメント部門 制作意図

創作ドラマ部門 あらすじ集

第55回NHK杯全国高校放送コンテスト千葉県大会応募状況

☆研究発表

千城台 アナウンス原稿の研究

☆ラジオドキュメント部門

小金 ことはかり、よろし？
船橋 時間泥棒～！
検見川 スペシャルサウンド
成田 ちょっとの勇氣
千葉西 図書館への贈り物
東海大浦安 僕らの昼放革命！！

☆テレビドキュメント部門

市原中央 ～書への想ひ～
市立稲毛 Grow up！
成田 睡魔せんが・・・
東海大浦安 地下室の秘密
鎌ヶ谷 夢をおいかけて
拓大紅陵 リラックス×2！
検見川 私たちの通学路
小金 わたしの自の書き方

☆創作ラジオドラマ部門

市立稲毛 change
長生 確率的虫
小金 合点承知！江戸に繋がるその時に
東海大浦安 高校生の政治
鎌ヶ谷 幸せにしちやい隊
市原中央 ステップ
成田 本当の恋、はじめました。
船橋 友愛(あい)は宇宙をかける

☆創作テレビドラマ部門

船橋 そして今、君に伝う
流通経済大柏 逃げられない
市原中央 待てない女
成田 もし子のバレンタインデー
長生 恋愛撲滅委員会

順不同

おことわり:このあらすじ集の表現は、各校から提出されたデータを元にしてしています。
誤字・脱字などはご了承下さい。また、転載はご遠慮下さい。

☆研究発表

千城台 アナウンス原稿の研究

〈研究要旨〉

私たちには、アナウンス原稿を書くノウハウがありませんでした。そこで今年の第54回の報告号から、アナウンス部門の参加者の原稿が掲載されていることを知り、アナウンス原稿の文字数や内容・構成などを調べてみました。その結果、文字数は、平均して370～420文字で、およそ1秒間に4～5文字読んでいることがわかりました。原稿内容は、規程に自校の校内放送に使用する内容とあることから、学校関係の連絡、学校関係の施設や行事などを説明するなどの校内ニュースでした。特に自分たちに身近な人物（同級生・先生・先輩・卒業生）や部活動（団体）の紹介でも必ず取材をしていて信頼のあるニュース性の高い内容でした。

構成は、特に呼びかけのあいさつは入れない4段階（起承転結）型が多く、これは取材した内容が取り入れやすく、何よりも聞き手に聞きやすい内容になっています。

☆ラジオドキュメント部門

小金 ことはかり、よろし？

〈制作意図〉

私たちは最初、言葉の乱れについて考えていました。取材をしていく過程で言葉の乱れとは言葉だけの問題ではなく相手の人への配慮が減ってきていることだと気づきました。今、私たち高校生が本当にすべき言葉づかいとは何かを伝えたいと思い、製作しました。

船橋 時間泥棒～！

〈制作意図〉

私は、高校に入ってから遅刻する人数が増えたように感じ、時間への意識について興味が湧きました。皆の遅刻に対する意識はどうか、なぜ遅刻はいけないのか、外国と比べるとどのような違いがあるのか。私は様々な人に取材し多くの考えを聞きました。そして、これらの考えをたくさんの人に聞いてもらいたいと思いました。

この番組で、特に高校生が時間への意識を見直してもらえたら嬉しいです。

検見川 スペシャルサウンド

〈制作意図〉

昨年、本校の『三年生を励ます会』で、音楽部の発表の中でヒューマンビートボックスを披露する山崎海里君の姿を見て、興味をもち、制作しました。

口とマイク一本だけで演奏するという山崎君の高い技術や、彼の音楽に対するまっすぐな気持ちを、本校生徒のみならず、もっと多くの人にも伝えるということ在意図としています。

成田 ちょっとの勇気

〈制作意図〉

「電車内では、お年寄りに席をゆずりなさい。」昔から、両親や先生方に言われてきたこの言葉。しかし、今の高校生はゆずるのをためらいがちになってしまいます。また、お年寄りに席をゆずったときに「年寄り扱いするな。」と怒られてしまった人も少なくないです。ゆずりたいのにゆずれない、そのような状況を変えるために、ちょっとの勇気をだしてみてください。そんなメッセージをこめて、この番組をつくりました。

千葉西 図書館への贈り物

〈制作意図〉

学年末の集会で、卒業生から四百冊近い単行本の寄贈があったと知り、なぜ全集や叢書などのまとまった本にしなかったのかと疑問に感じました。そこで、当時の三学年の先生にお話を伺ったところ、今まで知らなかった事があったということに驚くと同時に感動した私達は、もっと知り他の人にも伝えたいと思い、今回の番組制作に至りました。この番組を通して三年生の苦労を知り、本をもっと活用していただければと思います。

東海大浦安 僕らの昼放革命！！

〈制作意図〉

私たち放送部では、毎日昼放を流しています。しかし、生徒にはあまり聞いてもらえないのが現状です。そこで、コミュニティラジオの市川 FM との出会いを通して、多くのことを学ぶことができました。昼放は、一方的な情報発信ではなく、生徒と向き合うことが大切です。そのことを、改めて感じてほしいと思い、この番組を作りました。

☆テレビドキュメント部門

市原中央 ～書への想ひ～

〈制作意図〉

今日、パソコンや携帯電話が普及し、書道に親しむ機会が減ってきています。また高校生には書道は堅苦しい、暗いなどのイメージを持ち敬遠している人が多いようです。しかし書道には、私達が今まで知らなかった魅力がたくさんあります。そこで書道に情熱を持っている人や、自分達で実際に書道を体験したことを通し、書道の魅力を伝えようとこの番組を制作しました。

市立稲毛 Grow up !

〈制作意図〉

部員がいなくて休部状態だった演劇部。「入りたい」と思う人はいても、実際に入部した人はいなかった。去年の冬、ついに演劇部に部員が入った。新入部員は演劇初心者の男子生徒3人。しかし、彼らの前には問題が山積みだった。春の新入生歓迎公演会に向けて練習を始めた演劇部。

私たちは、演劇部の復活から初公演までを追った。

成田 睡魔せんが・・・

〈制作意図〉

私自身授業中眠くなってしまうって、周りを見渡してみても寝ている人が多く、どうしてこんなに寝てしまう人がいるのか？今さらながら考えてみました。生徒の皆にアンケート&インタビューで居眠りの原因を聞いてみたところ、睡眠不足という意見も多かったですが、それ以外にも先生の授業がつまらないという意見も…。生徒に「寝るな！」と怒る先生も、すいませんが…私たちのことも考えて授業を改めて下さいというメッセージを訴えました。

東海大浦安 地下室の秘密

〈制作意図〉

私たちの学校には校舎の耐震性を高めるための特殊な地下室があり、大地震が起きても沈下・倒壊しない構造になっています。しかし、避難訓練は真剣に行われておらず、生徒の防災に対する意識は高いとは言えません。いつ大地震が起きてもおかしくないと言われ、建物の耐震性が度々話題に上がっている今、建物の強度だけではなく防災を意識して、身近な人と共に助け合う「共助」が大切だということを伝えたいと思い、制作しました。

鎌ヶ谷 夢をおいかけて

〈制作意図〉

野球は男子がするもの、という考えは、もう昔のものです。鎌ヶ谷高校野球部にも、女子の部員がいます。彼女は齋藤友夏莉さん。友夏莉さんは幼稚園年長の時から野球をしています。そして去年の大会で、監督として登録されベンチに入ることが出来、さらにそのことで新聞などのメディアに大きく取り上げられました。友夏莉さんの野球に対する一生懸命な姿勢を通して、頑張ることの大切さを伝えられればと思いこの作品を作りました。

拓大紅陵 リラックス×2！

〈制作意図〉

日頃私たちは放送コンテストなど人前で話をする場面での緊張に悩まされています。実際に今までも緊張が和らいでいればもっと良い作品が出来たのに ... という経験もたくさんしてきました。そこで、緊張を少しでも無くし、これからより良い作品を作るためにリラックスする方法を調べて見ました。緊張という状態が起こる根本的なところから簡単にできる対処法まで詳しく調べ、ランキング形式にまとめました。

検見川 私たちの通学路

〈制作意図〉

私たちが通う学校は、駅から五分の近さと整った通学路とで、とてもめぐまれています。しかし、そんな良い環境であるにもかかわらず、通学路を守らず、住民に迷惑をかける生徒がいます。私たちは、そんな生徒達は何故通学路を守らないのか、どうしたら通学路を守るかということを考え、生徒に伝えることを目的に制作しました。

小金 わたしの自の書き方

〈制作意図〉

普段、何気なく書いている字だけれど、私たち放送局印員はふと思いました。“そもそも字って何のためにあるのだろう。”そして、“手書きの字に温かみを感じるのはどうしてだろう。”そんな疑問から始まり、この作品を作ることになりました。

☆創作ラジオドラマ部門

市立稲毛 change

〈制作意図〉

夢は努力して叶えるもの。一般的にはそういわれているが、願い事を努力しないで叶えられたらと、誰でも一度は思ったことがあるはず。もし、何かの力で願いが叶えられても、それはその人の力にはならないと思った。

私たちはそんな複雑な高校生の心情を主人公を通して描き、制作する上でのテーマとした。作品全体をミステリアスになるようにし、雰囲気の変化が伝わるようにした。

〈あらすじ〉

主人公の紅野紫は内気で勉強が苦手な女子高生。ある日彼女は学校の噂、「叶える書齋」を試しに図書室へ行く。そこで、どんな願いでも叶えてくれるという誠と出会う。半信半疑で頭がよくなりたいと言うと、誠は紫に一冊の本を渡す。渡された本を読むと、紫は苦手だった数学の宿題難なく解くことができた。本当に願いが叶うと確信を持った紫は、再度誠のもとへ向かい、今度は自分の内気な性格を克服するための本を読む。すると、今まであまり話さなかったクラスメイトとも普通に会話が出来るようになった。味を占めた紫はその後も事あるごとに誠を訪ね、自分の持つ理想像へと近づいていった。

しかし、紫の変化をよく思わないクラスメイトもいた。そのクラスメイトらにより、紫は無視されるようになる。疑問に思った紫は誠のところへ向かうが、本を提供することを拒まれてしまう。紫が誠にその理由を激しく問うと、誠は紫を諭し、罰を与える。

長生 確率的虫

〈制作意図〉

私たちは失敗を恐れて安全な方向へ逃げてしまうことがよくある。しかし結果は迎えるまでわからないのだから必ず失敗するとは限らない。もし成功する確率がゼロだとしても、自分の力で結果を変えていくのは可能である。やる前から諦めるのではなく、自分を信じて挑戦するべきなのではないだろうか。そのことを伝えるために、この作品を制作した。

〈あらすじ〉

失敗を恐れて自分から発言・行動することを避けている主人公の下に二匹の寄生虫がやってくる。彼らは物事の成功率を算出できる能力を持っていた。主人公の成功率を出す代わりに脳へ寄生させてくれという。彼らと手を組んだ主人公は学校で安全な時間を過ごす、成功率に依存していく自分に疑問を持ち始める。そして放課後、主人公は好きな人に告白しようとしたが、成功率は二パーセント。踏ん切りがつかないまま濃く告白に突入してしまう。しかし好きな人からかけられた言葉で、結果は怖いものではなく、自分の力で変えていくものなのだと悟り、脳から寄生虫を追い払う。

小金 合点承知！江戸に繋がるその時に

〈制作意図〉

最初に考えていた話は、江戸時代の人が現代から届いた悩みに対し珍解答をしていくというものでした。しかし、それだけの話だと高校生との結び付きが弱かったため、現代の高校生を主人公としました。江戸時代の人を只の不思議な存在ではなく主人公に影響を与える人にする事で、江戸と現代の繋がりを強めました。主人公の悩みを高校生なら誰でも悩む友達との関係とし、共感できる話を目指しました。

〈あらすじ〉

生徒会が目安箱を設置した。目安箱は学校への意見箱なのだが、生徒の多くは個人的な悩みを投函した。(友達がKYで困る等)主人公のハルカが携帯電話を落としてしまった。するとワンセグがつき、携帯電話に江戸時代の町人の映像が流れ始めた。町人達は目安箱に入っていた悩み事について討論していた。実は学校の目安箱と江戸の目安箱が繋がっており、学校で投函されたものが江戸時代の町人手に渡っていたのだった。ハルカが親友の友子と喧嘩し、途方に暮れ、目安箱にその悩み事を投函した。すると又携帯電話のワンセグが勝手につき、江戸の町人達がハルカも悪かったのだからきちんと謝らないと絶交することになると示唆をした。ハルカはそれに感化され、きちんと友子に謝り、仲直りする事が出来た。するともうワンセグは江戸に繋がらなくなってしまった。その時「KY」等と書かれた紙が入っていた目安箱が見つかったという報道が流れた。

東海大浦安 高校生の政治

〈制作意図〉

あなたが国会議員になったら何をしたいですか？この問いにすぐ答えることがあなたにはできますか？日本は被選挙権が二十五歳ということもあり、高校生の政治に対する関心はかなり低いです。そのため、自分の意見を持っている人が少なくあまりいい状況ではありません。では、実際に高校生が選挙を行ったらどうなるのか？それを考えて、この番組を作りました。

〈あらすじ〉

海斗と拓海は政府が提出した新しい法案、すなわち十八歳衆議院議員選挙に立候補しました。海斗はみんなに人気で票を獲得しようとし、着実に支持者を増やしていきます。一方、拓海はしっかりとした意見を持ち、今の日本に何が必要かを説いてゆきます。そして迎えた最終日、圧倒的な支持率を誇っていた海斗は、後は結果待ち。そんな海斗を尻目に、拓海は最後の演説で支持を獲得しようとし、拓海は演説は今までで一番良く、本当に高校生なのか疑うほどでした。海斗はその演説を聴いて、自分も選挙活動に疑問を持ち始めます。結果は僅差で海斗が拓海を破り、国会に向かいました。しかし、しばらくして先生の話で海斗が衆議院議員を辞任したことが判明します。

そして二年後。当時の高校生国会議員選挙に立候補した人物が現役最年少議員に就任したことがニュースで流れました。

鎌ヶ谷 幸せにしちやい隊

〈制作意図〉

もし、あなたがある日突然、知らない人に「幸せにしてあげる！」と言われたらどうしますか？私たちは考えてみました。『本当に自分が幸せだと感じている人は少ないかもしれない。』それでは、幸せはどのようなものでしょうか？幸せは人それぞれ違うと思いますが、それは誰かによって与えられるもの？自分で得るもの？私たちは、この作品にそんなメッセージをこめました。これをキッカケに『幸せ』について考えてみては…？

〈あらすじ〉

高校三年生で野球部の杉山純は、同じ部活の小川健人とケンカをし、気持ちが野球から遠ざかってしまっていた。

部活に戻ろうとはせず、グラウンドをみつめていた杉山の前に突如現れた妖精ハピ。杉山はハピに「幸せにしてあげる！」とつげられ、ハピの強引さもあり、部活でおきた過去を話すことに決めた。

その話を聞いたハピは、ケンカ相手であった小川に怪我をさせてしまい、気になった杉山は様子を見に行くことに。しかし、様子を見に行った先には小川が一人になるまで練習をする姿が…。ハピにさせてしまった自分の過ちに気づいた杉山は、ハピに小川の怪我を治してほしいと頼む。が、元に戻すことができないと知り自分でなんとかしようとする。

杉山と小川の間に沈黙が走ったとき、ハピは杉山に魔法をかける。二人は素直に気持ちを伝えることで和解し、大会に出場する。

成田 本当の恋、はじめました。

〈制作意図〉

最近、ゲームと現実を混合するという人がいます。ゲームではボタン一つでうまくいくことも、現実ではうまくいかないんだ、というメッセージと、人は見た目ではなく中身が重要なのであり外見だけで見てはいけない。`その人を心から見れる恋`という思いを込めて、この作品を作りました。

〈あらすじ〉

乙女ゲームが大好きな宮下有希はある日、ゲームのキャラそっくりの転校生の男の子に出会う。名前は小野坂 龍。有希は当然のごとく龍のことを好きになってしまう。登校初日から龍はクラスの注目の的となり有希が話せる状態ではなかった。しかし、朝のひよんな出会いがきっかけで、龍と有希が仲良しに。そのことを有希は幼なじみの太一に相談するが、太一は微妙な返事……。次の日から有希は龍に猛アタック。しかし、有希はゲームと本当の恋愛を重ねてしまう……。そんな有希を太一は心配しながらも相談に乗る。ある日、有希は先生に一人では大変なことを頼まれる。そこに龍が来て二人で作業したので、有希はちょっと期待するも、特に進展なし。太一に相談すると、本当の恋愛とゲームの違いに気づかされ、太一の優しい言葉が忘れられなくなる。次の日、有希は龍に告白されるが、自分の本当の気持ちに気づき、龍をふる。本当の気持ちに気づくも、太一には言わず心の中でつぶやいた。

船橋 友愛(あい)は宇宙をかける

〈制作意図〉

今回は全く性格の違う二人の男子が主人公です。勉強は得意じゃないけど一つの事に熱中できる坂本、何でもこなしてしまう優秀な杉田。坂本はそんな杉田を何でもできる奴と毛嫌いしています。私は二人が演劇大会を通して認めあっていく物語を書きたいと思いました。個性は大事ですがそれ以上に、自分以外の個性を認めるのは大事だと思います。向き合い、徐々にお互いを認めていく心情の変化を感じて頂けたら嬉しいです。

〈あらすじ〉

演劇大会の脚本を書いていた坂本は定期テストで赤点をとってしまう。ショックを受ける坂本の耳に入ってきたのは、同じクラスで成績優秀な杉田が満点をとったと騒ぐ女子の声。坂本は何でもできる杉田が気にいらぬ。同じように、杉

田もやる気のみえない坂本を認める事ができない。
そんな中演劇大会の準備が始まり、坂本は監督として動くようになる。こだわりを持って仕事をする坂本を、杉田は見直し始める。
しかし準備が順調に進んでいた矢先、坂本に一本の電話が入る。主役が骨折をして来れなくなったのだ。大会まで日が迫る中、新しい主役に選ばれた杉田。しかし杉田は演技が苦手だった。そんな杉田を坂本はからかってしまい怒った杉田は教室を出ていく。
しばらく経ったある朝、早めに登校した坂本は一人練習をする杉田に会う。そして杉田が努力している事を知りわだかまりは消えるのだった。坂本の劇は盛大な拍手で閉じる。

☆創作テレビドラマ部門

船橋

そして今、君に伝う

〈制作意図〉

メールや手紙は便利だ。遠くにいる相手に気持ちを伝えられるし、ずっと残しておくこともできる。普段言いづらいことも伝えやすい。だが、私たちの気持ちは文章に収まりきるものなのだろうか。文章からは、相手がどんな気持ちで伝えようとしたのかが読みとれないこともある。人と直接向き会うのは怖いことかもしれないが、それを乗り越えて初めて伝わる気持ちもあるのではないかと思い、この番組を制作した。

〈あらすじ〉

放送部のひとみは、先輩である川田に告白しようとするが、勇気がなく、友達のかなの協力のもとDVテープを入れる。
放課後、川田の下駄箱にテープを入れようとするが、そこで川田と女生徒が楽しげに会話しているのを目撃してしまう。
思わず放送室に逃げ込み、落ち込むひとみ。そこへ川田が現れ、ひとみはとっさにテープを隠し放送室をとびだす。そのまま学校の外へ出て行くが、横から来る車に気づかず、事故にあってしまう。
五年後の放送室でかなの弟によってテープが再生されるが、そのテープにひとみの意識が戻ってくる。山根やかなの言葉で、ひとみはもう一度川田に会い、直接告白する決心をする。
二日後放送室にきた川田に、ついに思いを伝えたひとみ。
川田は、自分もひとみが好きだったとこぼすが、ひとみはそのままテープから姿を消したのだった。

流通経済大柏 逃げられない

〈制作意図〉

近年、携帯電話の普及により多くの人々が携帯電話を持っていて、出会い系サイトなどの危険を伴うサイトへの入会も個人の判断に任されています。個人の判断に任されているということは、自分のしたことに対する責任はすべて自分が負わなければならない、軽い気持ちで行動してはならないことを、最近問題となっている出会い系サイトを通すことによって伝えたくて作りました。

〈あらすじ〉

携帯電話を買ったが女子のアドレスを知らなくて寂しい主人公の哲也。そこで偶然見つけた出会い系サイトに軽い気持ちでは入り、同じ年の綾佳と知り合い仲良くなる。そして出会い系サイトで友達が出来たことを友人に言うと「出会い系は辞めた方がいい」と言われる。だが綾佳なら大丈夫と高を括っていた。クラスの女子に哲也の幼馴染の美樹が社会科教室で待っていると伝えられる。行くと美樹から告白をされて、以前から美樹が気になっていた哲也は付き合いことにする。美樹と付き合い始めた哲也は、出会い系サイトを退会する。するとアドレスを教えていない綾佳からメールが来る。辞めたことを伝えると、しばらくして哲也の行動が分かるようなメールが届く。アドレスを変えてもメールが届くため携帯電話を手放す。美樹と帰り道で別れると目の前に女の子が現れ綾佳と名のる。驚き逃げる哲也。「あなたは私のもの・・・。」

市原中央 待てない女

〈制作意図〉

時に、私たち高校生は面倒なことを避けて楽な道へ流れてしまいます。何かを、誰かを「待つ」とは、人の心の豊かさの現れです。約束した友達を待つ、メールの返信を待つといった些細なことでも習慣にしている人は、勉強やスポーツの結果も待てる、辛抱強い人であると思います。待つことを楽しむ余裕、つまり退屈と思われる時間も工夫できる人は、自分の人生を奥深いものに行っているのです。気軽にみられるようにコメディ風に行いました。

〈あらすじ〉

みなさんの周りで、時間にうるさいせっちな人はいますか。学校の先生？お母さん？…いや、このドラマのヒロインの羽矢杉波耶子にかなう人は、きっといないでしょう。

一九九〇年四月一日午前0時きっかり、彼女はこの世に誕生しました。母親の証言…「波耶子はねえ、二歳の頃からストップウォッチを手放さなかったわね。一回呼べばすぐに来る手のかからない子だったわよ。」…彼女の恐ろしさを少しでもわかっていただけでしょうか。

さあ、波耶子の私生活の一部を覗いて、待てないワールドへ突入しましょう！誰かを待つことで本当の幸せが見えてきます。史上最強の青春ラブコメディ、ここにあり！

成田 もし子のバレンタインデー

〈制作意図〉

「もし〜だったらどうしよう。」何か行動を起こす前に、こう考えてためらってしまうことが少なからずあると思います。でも、考えてばかりで行動を起こさなくては、何も始まらないし、チャンスだって逃してしまうかも知れません。実際に行動してみないと、どうなるかは分からないものです。この番組では、いつも「もし・・・」と考える主人公 もし子 を通して、行動することの大切さを伝えたいと思います。

〈あらすじ〉

「もし・・・」といつも悪い方向にばかり考えてしまう、上岡もし子。バレンタインの日、もし子はあこがれの太谷隼人にチョコを渡そうとします。でも、考えすぎが災いし、なかなか渡すことが出来ません。そんなもし子は、友達にもあきれられてしまいます。結局、学校では渡せないまま、太谷君の後を追って家の前まで来てしまいます。そこで、ようやくチョコを渡そうと決心しますが、太谷君のもとに一人の女の子がやって来ます。ラブラブな雰囲気二人に呆然と立ちつくすもし子。ぐずぐずしている間に、先を越されてしまったのでした。帰り道、一人河原で「私がもしもしばらく考えていなければ・・・」と早く行動を起こせなかったことに後悔するもし子。涙ぐみながら、太谷君に渡せなかったチョコを食べて、あまりの苦さにびっくり！！「もし、これを太谷君に渡していたら・・・」とまた考えそうになりますが、「いや、渡さなくてよかった！」と前向きになり、帰って行きます。

長生 恋愛撲滅委員会

〈制作意図〉

私たちは、恋愛や勉強で成功した人や幸せをつかんだ人を妬んでしまうことがある。自分だけがうまくいかないと僻み、成功者の邪魔をすることもあろう。しかし、彼らの成功の裏には必ず努力や苦悩がある。私たちはそれを認め、見習わなければならない。そのことを伝えるために、この作品を制作した。

〈あらすじ〉

恋愛する者を徹底的に排除し校内の風紀を守る「恋愛撲滅委員会」。主人公は失恋のショックから、恋愛がうまくいっている生徒を妬むようになり、委員長となって生徒たちの恋愛成就を邪魔する。委員長たちの活動は順調に進んでいくが、彼女がかつて思いを寄せていた男子生徒が自分の恋を实らせようと影ながら努力し、苦悩する姿を見てからは、自分も以前は同じように恋愛に向き合っていたことを思い出す。自分の行いに疑問を抱くようになった委員長は、男子生徒の手助けという形で恋愛する生徒たちを認める。委員たちには反対されるが、放送室から連れ出された委員長の前には生徒たちの暖かな拍手が待っていた。こうして恋愛撲滅委員会は委員長とそれを支持する生徒たちによって消滅したのであった。